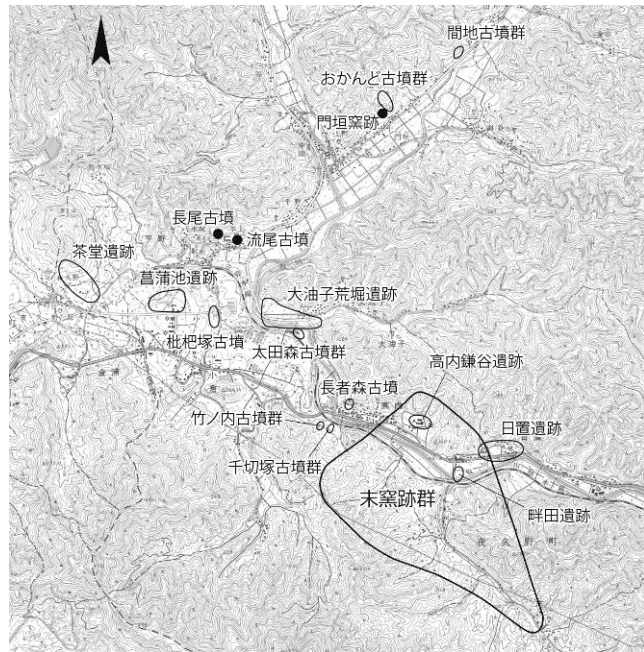


令和2年度 ACTR

分類 番号	A6	取組 名称	夜久野末窯跡群を中心とした地域の文化遺産・地質の調査と活用
研究代表者所属・職名：		文学部・教授	氏名： 菱田 哲郎
研究担当者： 京都府立大学（菱田哲郎、上杉和央、諫早直人、岸泰子、福井亘、小滝篤夫） 外部協力者（松本学博氏、鷺田紀子氏、東昭吾氏）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 京都府福知山市文化スポーツ部、高内自治会、末自治会、日置自治会など			
【研究活動の要約】			
<p>福知山市夜久野町にある夜久野末窯跡群は、古代の須恵器窯跡として、その重要性は早くから指摘されていたものの、これまで十分な調査がされてこなかったため、改めてその評価をおこない、活用に向けた指針を得ることが課題になっています。昨年度より窯跡について実地調査をおこない、その分布を把握するとともに、立地の特徴を検討しました。とくに、なぜそこに窯が築かれたのかを知るため、窯周辺地質についても調査をおこない、良好な粘土の分布範囲に重なることが明らかになりました。このほか、長者森古墳など周辺の古墳についても、出土資料の再検討に加え、写真測量による三次元モデルを作成し、将来の活用に備える準備をおこないました。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>夜久野末窯跡群は、7世紀前半から9世紀前半にいたる須恵器生産遺跡であり、近年の調査では100基を越す窯跡の存在が推測され、京都府下屈指の窯跡群ですが、十分にその内容は知られていませんでした。開発がおこなわれてこなかったために、発掘調査がほとんどなかったことがその原因ですが、結果として、古代の窯跡群がそのまま手つかずで残されている状況になっています。本研究では、その景観も含め窯跡群の調査をおこない、その価値を広く知ってもらうこととしました。今年度は、窯の所在確認を継続し、ほぼ全体を把握することができました。現地調査の結果、窯の本体や前庭部、作業用の通路などの痕跡が地表面でも観察でき、廃棄された失敗品も見つけることができました。一つ一つの窯ごとに調書を作成し、今後の研究や活用に向けた基礎資料としました。窯のある地形や地質上の特徴についても、専門家による検討を加えて、なぜそこに窯があるのかという問いにも答えられるようにしました。また、周辺にある長者森古墳、太田森古墳などの出土品について調査をおこない、窯が築かれた背景として関連付けることもおこなっています。長者森古墳については写真測量を実施し、3次元モデルを作成し、今後の活用にも備えることができました。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>京都府立大学考古学研究室「夜久野末窯跡群の調査（1）」『京都府立大学文学部歴史学科フィールド集報』第7集（令和3年3月刊行）なお、文学部歴史学科のホームページで全文を公開予定。 講演会はコロナウイルス対策のため実施できなかったが、令和3年度に実施予定。</p>			
【お問い合わせ先】			
<p>文学部 考古学研究室 教授 菱田 哲郎 Tel: 075-703-5264 E-mail: hishida@kpu.ac.jp</p>			

参考 (イメージ図、活動写真等)



夜久野末窯跡群の位置と周辺の遺跡



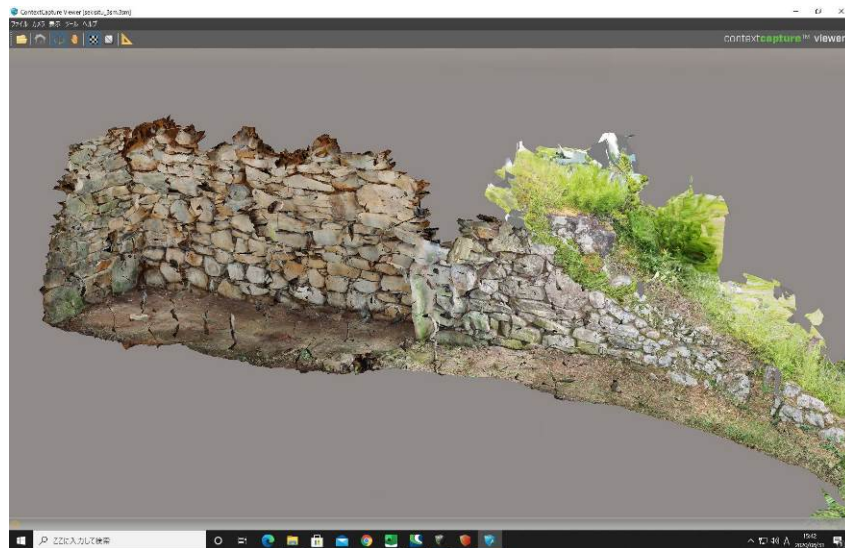
地質の調査風景



窯跡の調査風景



ドローンによる古墳の3次元計測



石室の3次元モデル